

令和5年(2023年)12月15日

栗原小学校区の皆様

つくば市教育委員会

栗原小学校の今後に関する説明会の会議録について

令和5年(2023年)11月19日に栗原小学校で実施した栗原小学校の今後に関する説明会について、資料及び会議録を地域の皆様に回覧いたしますのでご覧ください。

【問合せ先】

つくば市教育局学務課学務係

電話：029-883-1111(代表)

メール：edc030@city.tsukuba.lg.jp

栗原小学校の今後について

～令和8年度の(仮称)中根・金田台地区小学校開校予定による～

令和5年11月19日(日)

つくば市教育局

現状及び通学区域設定の考え方

つくばエクスプレス沿線開発区域である中根・金田台地区は、栗原小学校、栄小学校及び九重小学校の通学区域に含まれ宅地開発に伴い、児童数の増加が見込まれる地域である。今後も住宅等の建設が予想され、各学校の児童数増加により、教室数の不足が見込まれ、新たな学校の建設が必要な状況である。

(仮称)中根・金田台地区小学校は、令和8年4月に開校を予定している。建設地は、つくばエクスプレス沿線開発区域である中根・金田台地区の春風台地内にあり、現在は、栗原小学校の通学区域内に位置する。

(仮称)中根・金田台地区小学校の通学区域を検討するに当たり、建設地が通学区域内にある栗原小学校並びに隣接する栄小学校及び九重小学校の通学区域を分割する方針とし、各学校からの通学距離や通学経路、地域の地理的特性を中心に、各学校の児童数の推計値から通学区域を設定した。

令和3年度つくば市学区審議会

第1回 令和3年10月4日開催

第2回 令和3年11月9日開催

第3回 令和3年12月23日開催

第4回 令和4年2月7日開催

▶つくば市学区審議会ホームページ

<https://www.city.tsukuba.lg.jp/soshikikarasagasu/kyoikukyokugakumuka/gyomuannai/4/2/1013447.html>



(仮称)中根・金田台地区小学校開校に伴う通学区域について諮問

▶諮問理由

つくばエクスプレス沿線開発地区である中根・金田台地区内に、令和8年4月に(仮称)中根・金田台地区小学校が開校予定であり、栗原小学校、栄小学校、九重小学校の通学区域を分割し、新たに通学区域を設定する必要があるため

▶通学区域案

学校名	通学区域
(仮称)中根・金田台地区小学校	春風台、さくらの森、流星台

つくば市学区審議会答申

次のとおり設定することが望ましいと考える。

学校名	通学区域
(仮称) 中根・金田台地区小学校	春風台、さくらの森、流星台、上野、桜1丁目、桜2丁目、桜3丁目、上境、柴崎

(仮称) 中根・金田台地区小学校

通学区域 (案)

※学区審議会答申(令和4年3月14日)による

通学区域

春風台、さくらの森、流星台、上野、桜1丁目、桜2丁目、桜3丁目、上境、柴崎



R5.4現在の栗原小学校 地区別児童数内訳

令和5年(2023年)4月21日時点(学校名簿からカウント) 単位:人

行政区	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
上野	1	0	0	1	1	1	4
栗原	7	10	5	14	6	7	49
セントラルタウン (小太郎団地)	2	1	2	1	0	2	8
桜1丁目	10	18	10	7	12	5	62
桜2丁目	4	4	5	3	6	6	28
桜3丁目	6	3	5	6	3	6	29
春風台	36	28	32	30	24	20	170
その他	2	0	1	0	2	1	6
合計	68	64	60	62	54	48	356

学区分割後

■ 栗原小学校 児童数・学級数推計 単位:人

学年	令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和11年度		令和5年6月1日現在 在籍児童数	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	7	1	2	1	3	1	2	1	68	2
2年	9	1	7	1	2	1	3	1	64	2
3年	8	1	9	1	7	1	2	1	60	2
4年	7	1	8	1	9	1	7	1	62	2
5年	10	1	7	1	8	1	9	1	54	2
6年	5	1	10	1	7	1	8	1	48	2
合計	46	4	43	4	36	3	31	4	356	12

< R5在籍児童数及び住民基本台帳人口(R5.4.11時点)から >

学区分割後

■ (仮称) 中根・金田台地区小学校 児童数・学級数推計

単位：人

学年	令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和11年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	112	4	131	4	131	4	130	4
2年	121	4	112	4	131	4	131	4
3年	118	4	121	4	112	4	131	4
4年	99	3	118	4	121	4	112	4
5年	74	3	99	3	118	4	121	4
6年	77	3	74	3	99	3	118	4
合計	601	21	655	22	712	23	743	24

< R5在籍児童数及び住民基本台帳人口(R5.4.11時点)から >

つくば市立栗原小学校
小規模特認校 構想案

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

人とのつながりを実感しながら一人一人がのびのびと学べる学校

つくば市教育局学び推進課

本日の流れ

- 1 つくば市教育大綱
- 2 市のこれまでの取組
- 3 栗原小学校の目指す学校像
- 4 5つのプロジェクト
- 5 カリキュラムのイメージ
- 6 1週間のイメージ

つくば市教育大綱

最上位の目標「一人ひとりが幸せな人生を送ること」

- ① 「教え」から「学び」へ
- ② 「管理」から「自己決定」へ
- ③ 「認知能力偏重」から「非認知能力の再認識」へ

自律した学習者を育てる

歴史と伝統のある「栗原小学校」の新たな取組
～小規模特認校としての魅力ある学校づくり～

【小さな学校で大きな学びを！全職員で児童全員の支援を！】

【つくば市は、小規模校充実プロジェクトに取り組んでいます】

- ・ R4年度より先行研究を実施…谷田部南小(69人)
- ・ R5年度より研究開始(4校)…前野小(118人)
要小(98人)
真瀬小(116人)
柳橋小(94人)

市のこれまでの取組 谷田部南小学校の例

県指定「特色ある教育活動」パイロット研究推進校として

【つくば市立谷田部南小学校】(令和5年度)

- 学級数 普通学級6 特別支援学級2(知的I・自閉情緒I)
- 児童数 69名
男子 39名、女子 30名
- 教職員数 15名



R4.12.7
つくばSTEAMコンパス事業
～課題設定の場面～

市のこれまでの取組 谷田部南小学校の例

研究校として取り組んでいるテーマ

イエナプランの理念を取り入れた教育活動の実践研究
～多様な他者との交流を通じた児童の非認知能力の醸成～

【イエナプラン】
ドイツ発祥でオランダで発展、普及。
オランダでは、200校以上。
異学年学級・サークル対話(相手を尊重し認め合う関係づくり)
・ワールドオリエンテーション(生きた本物の題材をもとに、子どもたちが協働で探究する学び)が特徴

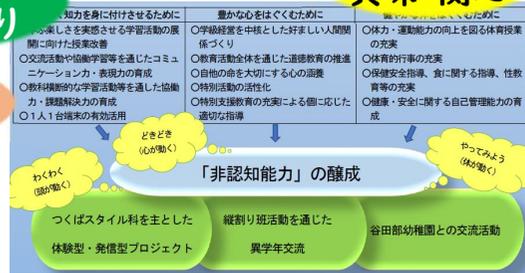
- 自律的な学習者の育成
- コミュニケーション力・協働力・表現力の向上
- 児童による自治的な学校の実現



市のこれまでの取組 谷田部南小学校の例

多様な他者とかかわり、自己を見つめる

- 非認知能力の醸成 ☆数値化することが難しい内面的な力☆
- やり抜く力
 - 協調性
 - 自信
 - 積極性
 - 意欲、やる気
 - 思考力・判断力・行動力
 - 自制心
 - 応用力
 - 創造力 など
- 他者との
かかわり
- 好きなこと
興味・関心
- 安心



【4年度グランドデザイン(部分)】

市のこれまでの取組 谷田部南小学校の例

【令和5年度～令和6年度】

○「サークルタイム」～友達の間を見ながら～

- 1～3学年、4～6学年の各学年ブロックでユニットを構成
- 朝の会、帰りの会、学級会等の場で
- 日常的な活動を共にしたり課題を解決したり

○学習面

- 児童による学習計画立案、自己評価の効果的な在り方を研究
- 問題解決型学習～問いの発見、対話、発信、新たな課題へ～
- 協働的な学び→同じような興味・関心をもつ友達と一緒に、問いを見だし、追究
- ホンモノから学ぶ→つくばSTEMコンパス事業(研究者、専門家等との対話)
- 友達、学校、地域、社会、世界とかかわりの中で、自分の位置を知る(自分のできることを考え、実行する)



サークル対話



秋を楽しむ会



中庭給食



つくば市立栗原小学校 目指す学校像
小規模特認校としての魅力ある学校づくり

人との
つながりを
実感しながら
一人一人が
のびのびと
学べる学校

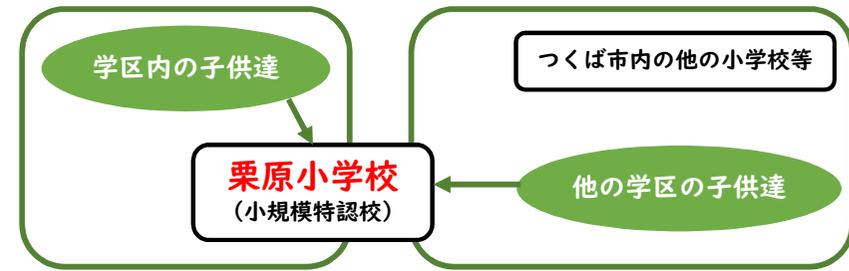
世界の
あしたが見えるまち。
TSUKUBA

少人数になることで、懸念されることは...?



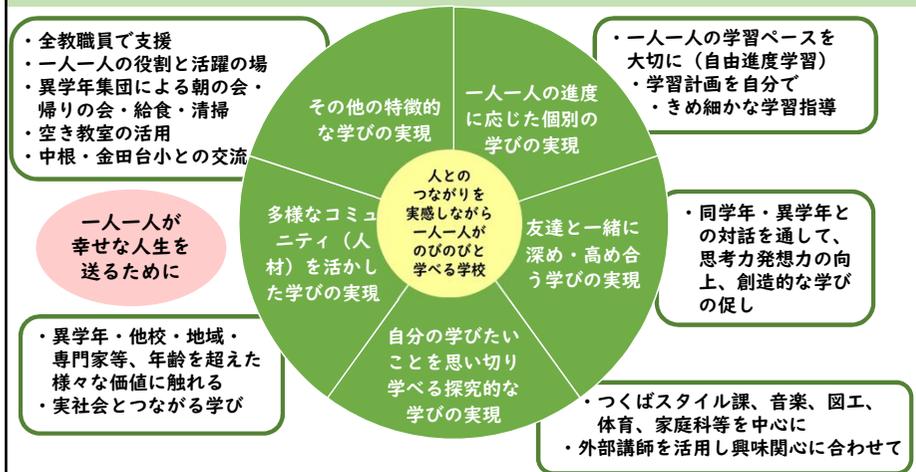
小規模特認校

従来の通学区域は残したままで、特定の学校について、通学区域に関係なく、当該市町村内のどこからでも就学を認める。

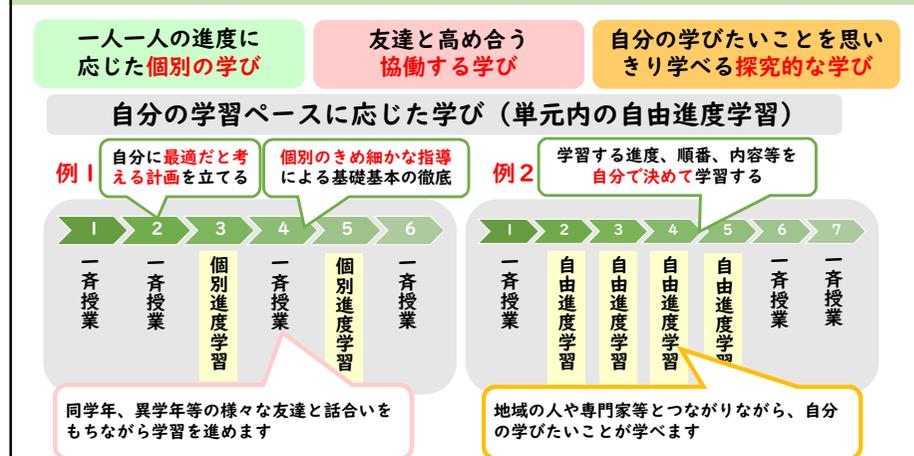


ある程度の規模を確保

学校の魅力 5つのプロジェクト



【カリキュラムのイメージ】



【一週間のイメージ】

	月	火	水	木	金
朝の会	異学年同士による活動				
1時間目	【主要教科等(国・算・社・理)の学習】 ・一人一人の進度に応じた個別の学び ・友達と一緒に学ぶ協働する学び				
2時間目					
3時間目					
4時間目					
給食	異学年同士による活動				
清掃					
5時間目	【つくスタ・音・図・体・家等の学習】 ・学びたいことを、おもいきり学べる探求的な学び ・多様なコミュニティ(人材)を生かした学び				
6時間目					
帰りの会	異学年同士による活動				

きめ細かな
学習指導

同学年・異学年の
友達と一緒に学ぶ
様々な形態

ランチルームでの
合同給食、縦割班
での清掃活動

様々な外部の専門家
を招き、社会とつな
がりながら学ぶ

気持ち良くスター
トできる温かい雰
囲気づくり

固定化しがちな
人間関係の解消

例：地域の飲食店と
コラボし、新商品を
共同開発

例：地域の方との野
菜作り体験を通して
給食の新メニューを
考案し提案

栗原小学校保護者向け説明会後の事前質問について（11/19地域住民向け説明会で回答）

	質問	回答
1	<p>10月14日の説明会でアンケートと地域住民の意向を基に現行案となったと説明があったが、そのアンケート実施時、新設校は栗原小学校区からは春風台のみとなっていた。それを踏まえて回答している。その後新設校の学区割が変更になったがその後のアンケートは実施されていない。新設校が春風台のみかそうでないかで回答内容は大きく変わっていた。昨年の説明会で初めて新たな学区割が説明されたがその案が出た際に、前回同様にアンケートを取るべきだったのではないのでしょうか？学区割に変更が生じたのであれば令和3年度のアンケートは無効になるのではないのでしょうか？</p> <p>現在栗原地区ではアンケートが実施されずに新たな計案で進められていることに困惑の声が出ています。早急に新たな計案でのアンケートを実施してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度開催の学区審議会の議論の中で、保護者の皆様や地域の皆様へ意見をお伺いし、その意向に沿った形で現行の案が示されておりますので、改めて市としてアンケート等を実施する予定はありません。 ・経緯として、まず学区審議会へ、新設校の通学区域を「春風台、流星台、さくらの森」という案で諮問しました。その諮問内容について検討するために、有識者、保護者、地域の方などから意見をいただき、みなさんの意見を反映した上で答申として取りまとめていたいたものが、現在の通学区域案となっています。 ・アンケートについては市で実施したのではなく、各区会や保護者のみなさまがそれぞれの意見を取りまとめるために各自で実施したもので、その意見等が答申に生かされています。 ・栗原小学校の保護者代表の方が、全保護者を対象に実施したアンケートにおいて、「あなたの住んでいる地区も新しい小学校の通学区域とすべきだと思いますか」という設問に、栗原地区の回答19件のうち、「思わない」が12件、「どちらとも言えない」が5件、「思う」が2件でした。 ・また、下坪区会で取りまとめていただいたアンケートでも、栗原小学校を残してほしいという意見を多くいただいています。
2	<p>学区外からは選択肢を設け栗原小に通うことはできるのに、なぜ栗原地区にはその選択肢がないのでしょうか？新設校に関して栗原地区のみ選択制でないことが疑問。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、原則として、各学校には指定の通学区域があり、住民登録地によって通学する学校が決まっています。 ・指定学校以外の学校へ通学を希望する場合は、学区外就学の基準に合致する特別な理由があるかどうかを審査し判断しています。 ・そのため、現在の案で栗原小学校が存続する場合、その指定の通学区域である栗原の方が栗原小学校以外を希望する場合は、学区外就学の基準を満たすかどうかの判断となります。また、栄小学校や九重小学校区の児童が新設校を希望する場合も同様に、学区外就学の基準に沿って検討するものであり、選択制ではありません。 ・ただし、栗原小学校が少人数となることが見込まれるため、特例として学区外からも児童を受け入れることができる制度として、小規模特認校という形を提案しています。
3	<p>地区の意向として栗原小を残したい、新設校に通う場合の通学手段の問題があることも踏まえ、栗原小を新設校のサテライト校として位置付けて運用することについて、市で検討していただけないかと考えております。校舎が異なるだけで、栗原の子供たちもあくまで新設校の生徒であり、授業はwebにて参加(定期的に先生が栗原小に来ることも提案したい)学校行事等は新設校側の動きに合わせて、基本的に新設校側で共同参加、といった運用をイメージしています。</p>	<p>栗原小学校に通う児童が、授業を日常的に新設校からのオンラインで受けるということについては、現実的ではないと考えます。</p> <p>その理由は、やはり授業は対面が一番だと考えるからです。学校教育は教師による対面指導や児童生徒同士による学び合い、地域社会での多様な体験活動が重要になると考えています。</p> <p>また、現在、不登校等のお子さんに対するオンライン授業は、授業時数としてカウントすることを認められていますが、今回ご提案いただいているようなケースでは認められていないため、実施は難しいと考えます。</p> <p>以上のことから、行事や授業も、可能であれば交流の場を設けながら学習を進めていく予定です。</p>

4	<p>栗原小を小規模特認校として残すのがすでに決定しているのでしょうか？または私たちの意向次第で廃校になる可能性もあるのでしょうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の学区等審議会を通して、有識者、保護者、地域の方などから意見をいただいた上での答申であり、現状、市としては栗原小学校を残す形での提案をしています。 ・市の方針について、先月に保護者説明会を実施し意見を伺い、本日、地域の皆様へ説明し、意見を伺っているところです。 ・今回いただいている質問の中でも「サテライト校として栗原小学校を残す」という意見があるように、様々な意見をいただいているところであり、今後の方針を決定していくにあたっては、栗原地区として地域全体の意思統一が必要と考えます。
5	<p>先生の負担(一度に複数の学年の研究、準備があるので大変)それなりの訓練、対応の指導は事前に研修しないと突然複式対応は厳しいのではないかと？</p>	<p>一度に複数学年の教材研究や準備を行うことには、知識や経験等が必要になります。教員の配置については、これまでの経験や年齢等を考慮し、学校全体のバランスを見ながら決定していきます。また、複式学級となると、県から加配の職員がつくことも予想されます。担当者用の研修も、必要に応じて実施を考えていきます。</p>

<p>6</p>	<p>現段階で説明されているイエナプランのイメージは自由なカリキュラムという印象を受ける。「自由」という表現が気になります。「進度に応じた学び」とも記載されているのを踏まえると、進学という観点に対して一歩遅れた対応という印象を持ちます。新設校と栗原小(R8以降)を横並びに比較して、学校体制やカリキュラムにどう違いがあるかを明確に説明していただきたいです。イエナプランになれた小学校生活を送った後、中学に進学と共に通常の時間割になるがその時間割に対応できるのでしょうか？他自治体などの実例を交えてメリットだけでなくデメリットもしっかりと説明していただけないでしょうか？</p>	<p>カリキュラムのイメージとして、自由進度学習をお示ししましたが、これはどこの学校でも取り組むことができる学習方法です。授業の進度を児童一人ひとりに任せ、各自が自分に最適だと考える学習計画を立て、自らの判断と責任で自由に学習していく方法です。あくまでも方法であり、学習内容ではありません。国で定められている学習指導要領に則った内容で学習を進めることは、他校と同じです。そのため、他校と比較して、学ぶべきことが学べないということはありません。大人数の学校では、一斉授業の中で分からないことがあっても声を出せずに困っている児童もいるかもしれません。その点、少人数である栗原小では、個々の児童の躰きにしっかりと寄り添い、きめ細やかな学習指導ができると考えています。</p> <p>一般的な小規模校としての懸念事項は、パワーポイント資料の13シート目に掲載してある通りですが、これらを払拭するための計画が、今回お示ししているものになります。</p> <p>また、資料の中でご紹介した谷田部南小学校の例で申しますと、昨年度、谷田部南小学校のイエナプランで学んだ卒業生が、現在谷田部中学校の7年生となっていますが、その生徒たちは、問題なく中学校生活を送れているとお話を校長先生より伺っております。</p> <p>今回の栗原小学校の件に関しましても、児童の円滑な小中接続のため、同じ桜学園内でも、少しずつイエナの精神を取り入れた、対話や児童主体の行事等を含めた学びを実施していけるようにしていきたいと考えております。</p> <p>【自由進度学習について】 自由進度学習だと、例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間で予定していたすべての学習を終えてしまう児童 ・ ページを進むごとに練習問題で確認をする児童 ・ 自信がなくて、教師の支援を必要とする児童 ・ 友達同士で教え合いながら学習する児童 ・ 昨年度の内容を復習することから始める児童 <p>など、10人いれば10通りの、20人いれば20通りの計画・目標・学習方法が予想されます。目標を自己決定し、計画を立て、最適な方法を考えながら学習を進めていくと、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分から学ぶ力 ・ 自分から考える力 ・ 自分から調整する力 ・ 自分から工夫する力 ・ 自分から振り返る力 等 <p>が高まり、つくば市の目指す、自律した学習者へと向かっていくことができると考えています。</p>
----------	--	--

7	<p>行事をどのように実施していくのでしょうか？前回(10月14日)の説明会でコロナ前に実施していた桜学園間の交流を再開するという説明がありましたが正當時の交流も十分だったとは言えず再度詳細な回答をお願いいたします。</p>	<p>前回10月14日の説明会では、「行事をどのように実施するか、具体的なところは未定です。しかし、一つ一つの行事の意義、目的等を考慮しながら、地域の方と一緒に取り組んだり、場合によっては新設校と一緒にいたりすることも含めて検討してまいります。」とお答えしました。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の流行後、学校で変わったことは、オンライン等を活用した授業実践が浸透したことです。</p> <p>小規模校で過ごしている栗原小の児童が、中学校進学後に大人数の中で順応できるのか、また、少人数よりもまとまった人数での授業実践のほうがより効果的であると判断した場合には、オンライン授業で児童同士をつなぐことも可能です。もちろん、オンラインだけでなく、対面型での交流も、必要と判断された場合には、実施が可能であると考えています。</p> <p>さらに、この交流は、小学校と小学校間での交流も含みますし、小学校と中学校間での交流も大切であると考えます。</p>
8	<p>全校生徒50人くらいの学校をどうしてそこまでして残すのか疑問、自分自身(親)が小さい小学校を卒業し中学校に入ってから苦労をしたのでこどもにそんな思いはさせたくない</p>	<p>(5と同様)</p> <p>さらに、市内への周知をしっかりと行うことで、栗原小学校に通いたいと考え、在籍する人数は増えることも考えられます。</p>
9	<p>保護者負担が増えることになるのでしょうか？(PTAやボランティアなど)</p>	<p>PTAの組織を残すかどうかからご相談させてください。また組織を残さないという方向になった場合でも、保護者の方からのご協力はいただきたい場面があります。どのような形が最善であるのか、保護者の方とよく相談して決めていきたいと考えています。</p>
10	<p>支援学級の確保や対応はどうか？</p>	<p>1名でも対象の児童が在籍している場合は、その支援学級は維持されます。</p>
11	<p>指定避難所として栗原小学校は指定されていますが、洪水・内水氾濫時は利用不可となっています。避難所にならない危険が想定される学校に児童が通うことをどのようにお考えでしょうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栗原小学校はハザードマップの浸水想定区域にあたりますが、洪水時の避難確保計画を作成し、洪水時に円滑かつ迅速な避難の確保を図っています。 ・大雨による浸水被害については、ある程度予測や事前対応が可能となりますので、地震のような突発的な災害とは異なる面があると考えています。
12	<p>新設校に通うことを考えた際にスクールバス導入について前回の説明会では現状春風台の児童が徒歩通学をしているため導入しないと説明がありましたが、距離は同じでも児童数の観点からは大きな差があります。令和8年度に現状46名の児童を想定されますがその児童は栗原地区全体に分布しているわけで登校班編成は少人数が予想されます。特に下校時は低学年の児童が少人数で下校となり現状の春風台地区の児童と同様に考えることは違うのではないのでしょうか？そこを踏まえ再度つくバスの利用などを含めスクールバスの導入についてお答えしていただきたいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、市内でスクールバスを運行しているのは、統合により通学距離が長くなってしまった秀峰筑波義務教育学校の一部地域のみです。 ・市内全体においては、更に遠い通学範囲かつ少人数で、徒歩や自転車で通学している地域もあるため、スクールバス導入は難しいです。 ・つくバス等の交通機関を認めるかについては、学校長判断となりますので、新設校の通学区域が決定し、通学路を検討する中で、改めて検討することとなります。

司会：質問がある方は挙手をお願いいたします。

発言者：名前も言ったほうがいいですか。

司会：よろしければ地区名だけお願いします。

発言者：栗原の下坪です。小規模特認校の考えについては非常に素晴らしいと思います。ただし、今栗原小学校には356名在籍生がいます。最初の計画では春風台の子どもたちが春風台の小学校に行くという話だったので、それなら折半して170人と170人くらいだからよいだろうと思ったのです。ところが、それがどういう風に変ったのか知りませんが、だんだん変わって、テクノパーク桜地区なども行くようになって、残ったのが栗原地区の47名、数年後には30名。次第にゼロになってしまいますよ。そういう学校を作ってコストをかける意味があるんですか、と問いたい。例えば、谷田部地区なんかは沿線開発に隣接している。これから人が増える可能性があります。でもここにはそういうのはないんです。ですから、栗原はだんだんだんだん縮小して、最後はゼロになってしまうんです。教育委員会にいたこともあるんだけど、春日学園に携わったことがあるんです。そのときも葛城小の地域の方からは絶対残せ、廃校なんて、みたいな話にもなりました。ただ当時の児童や父兄からはほとんどが春日学園に通いたいという要望がほとんどでした。春日学園にも許容の限度がありますので全員が春日学園ではなく葛城小学校も残りました。でも葛城小の場合は沿線開発の中に入っていました。でもここは、そういうものがないんです。将来ゼロになってしまうような学校を残していくというのはどうか。残すのであれば、その47名の児童をここに残すのではなくて選択制にしてはどうですか。そういうところに行きたい子供もいると思います。多様性があるわけですから。自分の個性を活かしたいと思う子供もいるでしょう。栗原小学校の47名にだけそれを押し付けて、栗原の子供だってそういうところに行きたい子供もいるだろう、行きたくない子供もいるだろう。そういう子供たちの希望・要望を聞くべきだと思いますので、私はこの案には反対します。

学務課長：ありがとうございます。栗原小の今後については、一番最初に、学区審議会の中でそれぞれの委員さんがアンケートをとっていただいた中で、学校として栗原小を残してほしいという意見であったので、答申として新しい学校の学区については、さきほど説明させていただいて、今ここに出ている通学区域の案となって、栗原小学区としては栗原という形にはなっております。ただし、これは答申として今いただいているところで、先ほどお話しさせていただいた通り、先月に保護者の方に説明会をさせていただいて、意見を聞いております。そして今日、改めて地域の方々皆さんにご意見をお伺いしています。その上で、

発言者：決定ではないんでしょう？選択権とかこれから作るんでしょう？

学務課長：選択権とかの前に、まず今は、

発言者：みんな子供たちが突然 60 人のクラスから 3 人・4 人のクラスになったら、学力の部分と、子供たちは人と会ってコミュニケーションをとっていくわけじゃないですか。コロナも終わってようやくマスクなしで話ができるようになってという中で、コロナのせいで人としゃべれないということがあって、コミュニケーション能力が下がっているということを、皆さん知っているじゃないですか。テレビでも言われています。その時に、3 年前のアンケートの時は、全然そういうこともわかってないですから、我々は、コロナでこんな時代が来るなんて思ってなかったんで、今後こういう学校を作るというならば子供たちの成長に対して心配になっていると思います。ですからそれを踏まえたうえで、自分の子どもをどの学校に行かせるかというのは、子供の人生がかかっているから、それを念頭に置いて話しをさせていただきたい。

学務課長：よろしいですか。まず学区審議会の意見が出ていた時に、栗原小が栗原だけになりますので、その時に人数についてもお出ししました。残った栗原小は少なくなりますよ、ということもお出しさせていただいて、その上で答申をいただいたということで、今回の案となっております。ただし、今お話しした通り説明会としては、保護者の方へ説明会をさせていただき、改めて地域の皆さんの意見をお伺いしています。答申ということでもいただいておりますが、実際進めるに当たっては皆さんの意見もお伺いしながら進めていきます。ということで、先ほど事前にいただいた質問でも、すでに決まったのですかという質問がありましたが、まだ決まってはいいないです。先ほど説明した質問でも、栗原小をサテライトとして残してほしいという意見もありますし、栗原小は私たちの意見が集まれば統合されるのですかというご意見もありました。それぞれ意見がいろいろあると思います。これは事前にいただいた意見ですので、改めて今回来ていただいている皆さんからの意見はいただいていないものですから、いろいろな意見をお伺いして、その上で最終的には判断する形となります。

司会：そのほか、ご質問はありますか。

発言者：すみません、違和感を感じたのが、今答えていた方が、冒頭から学区審議会によって出されたから私たちはそれに従ってやっている、とおっしゃっているんですけど、そもそも学校を残すかどうかを決めるのは審議会なのか、市の教育委員会が主体的に決めるのか、ということを明確に教えてほしいことと、あともう一つ気になったのは、栗原小をなくすということであれば、地域がまとまる必要がありますよね、といったこともおっしゃっていたと思うのですが、それって何か丸投げな感じがしていて、そもそも説明会を行っているということは、意見をみんなでまとめるからやっているというより、何かあなたたちが決めて今さら反対して何なんだ、という感じを私たちは受けちゃうんですけど、そこについてちゃんと教えても

らえますか。

学務課長：質問ありがとうございます。統廃合につきましては、こうですよ、と決めるわけではございません。まず学校適正配置計画の中で、もし学校が少なくなるときには統合を検討する時期ですよ、という記載が前はありましたが、今は統廃合について明記はしておりません。小規模な学校は小規模でも残していくという形になっています。以前、山口小学校という学校を統廃合したことがございます。その時は、計画には確かに載っていましたが、地域住民説明会をさせていただいて、皆さんが、山口小が少なくなったので子供たちのことを考えると、残さないで北条小に統合してください、という形で意見がまとまったので、統合した経緯がございます。皆さんの意見をお伺いしながら、統廃合というのは進めていく形となっております。今回は、新しい学校の学区を決めないといけないので、審議会に諮問しまして、委員さんが意見をアンケートなど様々な手法で意見を聞いてきていただいて、学区案を作っていた。その過程で、最初にお話しさせていただいた通り、新しい学校について、栗原小学校区からは春風台という形でどうですか、ということを考えていただいたときに、皆さんが意見を聞いてきていただいて、うちの地区も入れてください、この地区も入れてください、といったことが審議会で話し合いがされて、最後にこの通学区域がいいのではないかという意見をいただいた。その結果として栗原小は栗原という地区だけになった、ということが今の現状です。ただし、これが決定したかということ、決定してはいないです。この答申については、皆さんの意見が盛り込まれた形となっておりますので、市としては、栗原の方が栗原小を残してほしいという考えがあるという中で進めています。ただし、栗原小が少なくなってしまうので、残すにあたって人が多いほうがいいですから、私たちとしては、人が多くなるにはこういう形を提案しますよ、という説明をさせていただいている。こういった形もある中で、栗原小を残すかどうかということについては、皆さんの意見を聞いているというところです。

発言者：わかりました。質問に答えてもらってなくて、学区審議会で決まったのは決定だから行くしかないのか、そこから変えられるかを聞いているんです。

教育長：ありがとうございます。学区審議会というのはあくまで教育委員会からの諮問に応じて案を出すところです。決定するのは最終的には教育委員会です。ただ、先ほど主体的に、とおっしゃいましたが、住民の方々の思いを聞かなければ、私たちはいけないと考えています。私たちが勝手に決めちゃって、栗原小を無くしますとか、残しますとか、それは住民の方にとって非常に不満の残る問題だと思えます。住民の方の声をしっかり聞きたいからこういった説明会をしています。決して、私たちが残さなきゃいけないと思って、喧嘩を売っているわけではなくて、残すのだったら私たちはこうします、残さないのだったらどうしましょうかと。それはできれば皆さんの総意であってほしいのです。私たちがこうしますという判断はなかな

かできないです。正直。皆さんが本当に残したいですとか、新しいほうに行きたいですとか、そういった皆さんの声がしっかり私たちに届いてほしいんです。ここで、こうしろとか、喧嘩腰に私たちは来ているわけではなくて、皆さんのお声を聞かせてくださいという会ですので、その点をしっかりお願いしたいと思います。

発言者：教育長、ありがとうございます。まだ決まっていないということについてよくわかったので説明ありがとうございました。あともうひとつ疑問なのが、今我々から、反対意見もあることを知ったと思います。これはひとつ事実だと思いますが、学区審議会を通さないとも何も決められないのか、通さなくても住民の意見ということなどで、今後、もし廃校や統合に向けて進むときのプロセスについて教えて下さい。

教育長：審議会が答申を出したのものについて、またそれをくつがえすということであれば、審議会を通して、住民の方の音がこういったことですから、こう変えたいのですが、審議会としてはいかがでしょうかということは、手順上は、答申を出したのに勝手に変えられたということになりますので、そこは通すべきだと思います。

発言者：ありがとうございました。我々の意見もちゃんと聞いていただいて、反対の意見もあったということ踏まえて進めていただければと思います。

司会：はい、お願いします。

発言者：私も、家族の中に子どもたちもいまして、どうしようかということで家庭内でも話をしてきました。学区審議会の会議録も読ませていただきました。栗原小学校の小規模化ということについても、検討課題として最終的に出てきていると思います。小規模校、複式校ということについては、国や県、つくば市もそうだと思いますが、基本的な考え方としては、デメリットとかも踏まえて、無くそう、統合しようというのが一般的な考え方としてあるはずなんです。そういうことを踏まえますと、複式校として残していこうということについては、非常に慎重に、地域住民の声を聴いて、そうして進めてほしいと思うのです。複式校については、私も少し関係したことがあるんですけども、例えば、1つのクラスに2つの学年があるということになる。先生方も例えば20分は3年生に向き合う、次の20分は4年生に向き合うというようなことで、子供たちの考えをお互いに確認しあうとか、そういった流れにならないと思います。授業そのものが。一斉授業としても非常に難しい授業になっていくと思うのです。そのほか、運動会をどうするのかとか、クラブ活動などで子供たちがこういうことをやりたいといった活動もなかなか進められないということで、少人数であることのデメリットは大きいのかなと思います。プラス面としてひとりひとりをよく見られるということもあると思いますが、私は教育というのはある程度の人数で子供たちがお互いに関わり合いがあって、進めていくのが重要だと思うのです。特に小学校については、よく遊びよく学ぶといったことだと思います。よく遊び、ということがどれだけ可能なのかということをお考えです。

複式校として残すことは非常に慎重に、最終的には教育委員会の判断ということになると思いますが、地域としては非常に不安があります。新しい学校のほうに行くことになると、今度は安全面の問題もあると思います。ただ、安全から学校の在り方を考えるのではなくて、学校は子供たちがどういった生活を送るのか、そのために安全面でどうするかという考え方で、子供たちの将来どう学校生活を過ごしていくかということを中心に踏まえて、考えていただければと思います。地域の声がいままで十分届いていなかったということもあると思います。私も初めて知ったようなこともたくさんありますので、皆さんも初めてのことがたくさんあると思います。アンケートをとったということもありますが、あれは第一回審議会の後ですから、その時はまだ栗原小学校の児童数は200人近い段階で、その段階でしたら皆さんも栗原小学校を残してほしいな、という考えもあったと思います。地区の方からも伝統とか歴史とか愛着とかありますけども、栗原小学校の伝統とは何だろうと思うのです。それよりは未来ある子供たちが、どういう環境の中で教育を受けていくのか、伝統とかではなくて、そういう面から考えてほしいと思います。よろしく願います。

発言者：下坪です。私も教育関係に携わっていたので、一言述べさせていただきます。私たちがこの人数を知ったのは、実は今年の常会で初めて40数人になってしまうということを知ったのです。栗原小学校が令和8年度には47人になってしまうということを、下坪、中坪、上野、どの地区も知らなかったのです。ということで急遽これは大変だということで、集まってもらって話をもったんですね。学区審議会の情報がこっちまで回ってこなかったという現実はあるということを知っていただきたいということが一つ。二つ目、先ほどの方も言ったように、私たちは子供が中心なのです。子供ありき。私がここで強調したいのは集団の中の個なのです。集団の中でどうやって携わっていくか生きていくか、ということが私たちの教育の原点だと思っているので、小規模校がいいとか悪いとかいう判断はなかなか難しいところだと思いますけども、ある程度の人数はいないと教育は成り立たないと考えています。全部個人になってしまう。私たちの原点はある小学校にあったんです。集団の中で個をどんなふう育てていくかということを実際に本当に研究して、のびのびとやらせてもらっていた。そして世界で活躍している人が育っています。そこを考えてほしい。最後に3点目、中学校にいったときに、小さい集団が大きい集団の中に入るとなかなか難しいものがあるんです。どうしても、こういう言い方をしは申し訳ないですが、大きい集団の中ではじかれる傾向があるのです。栗原小学校は我々がいた頃は18人しかいなかった。桜中に行ったら200人近い生徒がいたんです。どうしても栗原小学校の子は小さくなってしまいうんです。どこから来たと聞かれて、栗原小学校です、と言えなかったんです。できれば、さっき言ったように、栗原も春風台の小学校に行ける選択肢を残してほしいというのが私の願いです。

よろしく申し上げます。

発言者：ひとつ伝え忘れたんですけども、いろいろな考え方があると思います。やはり栗原小学校を残してほしいという考えもあると思うのです。一方で新しい学校に行きたいという考えもあると思うのです。そこは地域の中に分断が生じないように教育委員会の中でなんらかの形で、いろいろな意見を聞いていただいて進めてほしい。あそこのお父さんたちとは付き合いがなくなってしまうということがないように進めてください。

教育長：ありがとうございます。すごく大事なことを言っていたと思います。教育委員会としても子供たちのことを一番に考えてやっていきたいということは変わりありません。私は教育長という立場から、何よりもそれを考えてやっているつもりです。ですから、もし残すのであればできるだけ子供たちにいい環境で学ばせてあげたいということで、今提案しているようなことを知恵を絞って考えています。また、地域の分断ということですが、私も田舎育ちですからよくわかります。地域は大事です。だからこそ、地域の皆さんが十分話し合っていて、私たちがこうしますというよりも、皆さんのなかで、こうしていこうよ、ということでまとめたいただかないと、私たちも判断が難しいところです。残すにしても残さないにしても、今のまま私たちが決めたらどちらにしても分断が起こってしまうのではないのでしょうか。やはり地域の方が十分に話し合って納得する形での最終的な決断ということになるのではないかと思います。そこをを考えていただければと思います。子供たちが中心というのはもちろんその通りだと思います。私は教育というのはそうだと思っておりますので、皆さんのほうでもその点をもう一度お話しただければ。私たちは皆さんの意見を尊重したいと思って聞いています。よろしく申し上げます。

学務課長：説明会については区会回覧でお知らせしましたが、今回出席できなかった方もいらっしゃいますし、もう一度区会の中で、いろいろな意見を話しあいたいので会議録を後で回覧してほしいという意見もありましたので、会議が終わりましたら会議録を作成し、区会の方へ回覧させていただきますので、それをもとにもう一度お話しされるのであれば、ご利用していただければと思います。よろしく申し上げます。

発言者：中坪です。貴重な意見をありがとうございました。先ほどいろいろお話しいただいたんですが、私も子供のことを一番に考えていただきたいということが一番です。先ほど、地域がまとまらなければいけないということがありましたが、その一方で意見が割れてしまうということも絶対あると思います。その時に、市のほうからはアンケートをされないということでしたが、市のほうからアンケートをしていただいたら、誰の意見かもわからないし、今の現状を皆さん理解したうえで、なおかつ子供が少なくなる栗原小の親を対象に聞いてほしいのです。地域などの広

い観点で協議していただいていると思うのですが、実際に通わせるのは私たちなんです。でもこれから栗原小に通わせなければならぬ親に対してのアンケートは来ていないんです。そういう情報も、私も娘がまだ小さくて、地域の方から聞いてやっと最近知ったんです。知らないだけと言われたらそこまでですけど、でもそれはやっぱりおかしいと思うし、決まった後に、あなたはこのまま栗原小よ、と自分の子どもに私は言いたくないです。子どもに一番最適な選択をしたいし、子どもが実際に通うんですから、その子供たちにアンケートをとるべきではないですか。うちの場合は1年生にみんなが入ってくる、でも2年生になったらほとんどの子どもがあっちへ行ってしまおうんです。残された子供たちの気持ちはどうですか。親としては悲しくないですか。心配じゃないですか。だから真剣に話を聞いてほしいんです。もちろん決めなくちゃいけないこともいっぱいあることも理解しています。でもやっぱり一番は子供に幸せになってほしいという気持ちです。なので、アンケートをしないと突っぱねられてしまうと、私たちもどうやって地域の意見をまとめればいいのか。逆に教えていただきたい。なかなかやり方もわからない。なので、新しい情報で、対象の方全員に、子供も踏まえてアンケートをするのが一番平等じゃないですか。それでも、本当にいろいろな考え方もありますし、新しい教育プランも考えていただいて素晴らしいと思う一方、基本的な学習や、自慢がないと自由も難しいですね。自由を掲げていらっしゃるのは素晴らしいと思う一方で、新しいところに飛び込んで行く子供たちが、何もわからないまま自由といわれても、何もできないです。新しい先生に全部お願い、というのも無責任だと思うし、自分も保育に携わっていますが、自分が同じことを言われるととても責任が取れない。子供たちの人生がかかっているんです。大人たちのいいように勝手に子供たちの人生が振り回されちゃいけないと思うのです。なので、アンケートをやらないということで頭ごなしに言われるのではなく、少し検討していただくと、私たちも柔軟にちゃんと現状を伝えられると思いますし、そちらのほうでも把握しやすいんじゃないかなと思いますので、ぜひ検討していただければと思います。お願いします。

学務課長：ありがとうございます。アンケートを実施するかどうかについて、例えば保護者だけを対象にするかなど、やる場合にはいろいろなことを考えなければならぬと思いますので、それも含めて検討させていただき、ご意見としてお伺いします。

司会：そのほか、ございますか。

発言者：わたくしも、栗原小の会長をしていたということと、春風台代表ということで、学区審議会のほうに委員として参加させていただいて、先ほどありましたようにいろいろな意見を皆さんとかわしました。このころから、やはり地域住民の方にとっては母校がなくなるというのは寂しい、でもやっぱり子供は大変という意見ももちろんありました。いま皆さん問題としてごたごたしているのは少人数になっ

てしまうから、ということがあると思います。シンプルに栗原小全部を新しい学校に移転ということはできないでしょうか。そしてその中でも、いまこの学校を残すという構想であるとするならば、少人数のほうが良いという子供たち、学区外の子どもたちも含めたそういう形で、栗原小学校を残すのであれば、校歌を新しく作る必要もないし、校章もこのまま引き継がれる。春風台にいま計画されて、台坪とかの子どもはやはり遠くなりますけども、学区内ですから。いま春風台から通っている子供は2キロほどの通学路を1時間くらいかけて朝早くから歩いて通っています。それが逆になりますけども、ここの地区だけがここに残るということがあるから不安が残るということがあるので、栗原小学校区全部が移転する。少人数が良いと希望される方がいればそういう声も聞く、というようなシンプルな考えのほうがいいのか、と思いました。

学務課長：ありがとうございます。先ほどのサテライト校という質問の中でお答えしたこととある程度関係してくることもあるかと思います。ご意見として伺いしておきたいと思います。

発言者：下坪のものです。先ほど中坪の方が、もう一度、直接子供さんを持たれている方を対象としたアンケートをしてほしいというご意見で、素晴らしい考えだと思いました。ただ、回答としてご意見として持ち帰って検討するというお答えだったものですから、いつまでにこれを取りまとめただけなのか。実際にこれからを担う子供たちを育てていく保護者の方の意見がすごく大事だと思います。何十年も前に私たちは小学校を卒業しましたが、そのころと今の時代とはかけ離れている状況にあると思います。本当に地域の方々の声をよく聞いていただけなのであれば、いつまでに、教育委員会のほうでしていただけるのか。正直この懇談会についても、3年前にアンケートを取ってから時間を要している。もう少し早い時期にこういった懇談会をしたり、将来このくらいの学校になるといったことがあれば、もっと早めに出すべきだったと思う。先ほど中坪の方が質問されたことについて、いつまでに教育委員会さんでまとめてお答えいただけるのか、それをお聞きしたいと思います。もう何年もないわけですから、新設校が開校になるまで。ズルズルいってしまって、結局ある程度の土台が裏ではできている、なんてことが無いようにお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

学務課長：ありがとうございます。いつまでという、例えば何月までというような回答までは、今ここではできません。ただし、新しい学校の開校がもう令和8年4月ということで決まっています。こちらの説明会などはまだ進めておりません。それは、この栗原小の今後についてが決まらないと、そちらを進めるべきではないと思っておりますので、栗原小の今後について、今皆さんの意見をお伺いしております。こちらが決まってから、新しい学校について進むようになります。このまま何もなく進んでしまうのではないかと、ということについては一切ないです。皆さんの

意見を聞きながら、この栗原小をどうするかを決めて、今後決まってから新しい学校について進みますので、いつまでに、ということはお答えできませんが、やる場合は早急ということで検討させていただきます。

教育局長：いま課長からありましたように、いつまでにということとはなかなかお答えできないのですが、ただ、私たちもそんなに遅くはさせられない話だと思っておりますので、ご理解いただければと思います。アンケートについては、子供たちということであれば設問なども慎重に考えたいというところもありますので。慎重にとは言いつつも遅らせるつもりは全くなく、やるのであればできるだけ早めにと思っています。期日を約束することについては避けさせていただいて、やるのであれば早めにやらないと、この後に決めなければいけないこともありますので、そういった答えとさせていただければと思います。おっしゃっていただいていることについては重々理解をしておりますので、よろしくをお願いします。

発言者：アンケートはやっていただけるということでよろしいですか。

教育局長：やる方向で考えていきたいと思えます。

発言者：当初の考えでは、もうアンケートはやらないということで、それはどういったものに基づいてやらないと言っているか聞こうかと思っておりましたが、やるということであれば、よろしくをお願いします。

発言者：アンケートについて、私もすごくいいことだと思うんです。アンケートは、先ほどからあんたたちが勝手にやったという割には、説明の資料にも使われているように、アンケートをとって我々が今どう考えているかわかるべきだと思うんです。アンケートをやる時期は答えられないとしても、ここに教育長もいらっしゃいますし、アンケートをやるという回答はできると思うんですけど、やる方向という回答になってしまうのはなんなんですか。

教育局長：やります。よろしくをお願いします。

教育長：設問については難しいと思っています。今ご意見をいただいている先輩方の意見もいただければと思いますのでよろしくをお願いします。

司会：続きまして、質問はございますか。

発言者：今後、学区審議会というものは開催されるのでしょうか。第4回の審議会まで開催されたということですが、今後の予定はあるのでしょうか。いま話されている内容は、学区審議会で決まったことが説明されていた内容で、皆さんの課題になっていることがあるんですけど、今後の開催はあるのでしょうか。

学務課長：審議会は諮問して答申をいただいております、それが変わるのであれば、また審議いただく必要があるかと思えます。

発言者：3回ほど説明会に参加させていただいて、およそ反対意見が多いので、いまやっていただくことは、それをまとめて賛成の方を説得するような内容になってしまうのではないかと思います。アンケートをとるのもいいんですけど、それで判

断するのはすごく難しいと思いますので、やはりまた、学区審議会に戻してまた審議していただくのが筋なのかな、と思いましたので質問させていただきました。進めるのであれば、年度内か次年度早々に進める必要があると思うのですがいかがでしょうか。

(会場から)：ちょっといいですか。学区審議会というのは、答申が出たら解散ですよ。学区審議会をやるとすれば、新しい委員、メンバーを募って第1回という形ですよ。

学務課長：基本的には審議会は諮問をして、審議するための開催となりますので、前回のものは諮問をさせていただいて、答申をいただいていますので、この審議会は一度終わってはいます。改めて開催するには、こういうことを考えてくださいという諮問をして、答申をいただくという形となります。

発言者：議事録を拝見して、やはり小規模に対する不安、委員の方も選出されて大丈夫だったのかという不安を感じるような文章があったり、アンケート調査するのもすごく不安だというお答えもあった中で、またこの説明会の皆さんの意見もあって、もう一度学区審議会のような会議をしていただいて、結論を出していただけるとうれしいと思います。

司会：ほかに質問等ありますか。

発言者：中坪地区のものです。私は4歳の息子がいまして、将来小学校にあがるわけで、栗原小学校は明治から開校していると思うんですが、私のうちは数百年暮らしているわけですが、曾祖父から私で4代目で、子どもで5代目を通うはずだったんですが、小規模特認校という説明を受けまして、私としては息子を通わせるのは不安というように思っています。私の周りでは小規模特認校として残すのであれば、引っ越しを考えるとという方もいらっしゃいます。いまの子どもの教育も不安ですが、引っ越しをするという方も何名かいるということで、これから小規模特認校に来たくないということで、この地域から離れていくということがとても不安です。この地域は、600年とか700年とか代々継いでいらっしゃる方もいらっしゃいますし、栗原小学校が小規模で残ることによって地域が衰退していくのでは。先ほどの方からは栗原から子供がいなくなるという話がありまして、私はそれはどうかと思うんですが、私も息子がいますし、若い人で家を継いでいくという人もいますので、将来のことを考えても、小規模特認校として残すというのはいかがなものかな、と思います。皆様いろんな意見を言っていただいて、私も賛成なんですけども、ぜひもう一度アンケートなり、考え直していただければと思います。私のような考えの人は、今日は仕事でこれなかった方もたくさんいますが、そういった声も多いので、ぜひ前向きに検討していただければと思います。

学務課長：ありがとうございます。今言っていたように、今日いらした方はこうやってご意見をいただくことができましたけども、これなかった方もいらっしゃ

いますので、会議録を区会回覧させていただいて、またそこでいろいろな意見が出ると思っていますので、お伺いしたいと思います。ありがとうございます。

司会：時間の都合もありますので、あと、一人か二人ほどで。

発言者：台坪地区のものです。私も栗原小学校に通わせている子供がいて、私自身は栗原に移り住んでから10年足らずということで、いまこの場にいらっしゃる方よりは栗原への思い入れという部分では少し劣るところもあると思います。ただ、子供たちを学校に通わせていく中で、妻も栗原に住んでいますので、思い入れはあるところですし、子供会の会長や地区の行事の役員もさせていただいています。その中で問題となっているのは、やはり子供たちが少なくなっている中で、そういった活動をどうやっていくのかということが大きな問題としてあります。栗原小学校の規模が少なくなってくると、どうしても地域の活力も低下してくるということもあるのかなと思います。そういったところで、栗原小学校並びに栗原地区をどのようにしていくのか、ということが大きな関心事です。本日のスライドの中で小規模特認校について説明をいただきました。その中で、ある程度の規模を確保するというものがあったと思うんですが、これがちょっとどういった意味なのかということで質問させていただきました。例えば、1学年1クラスの体制を確保するといったようなものだったりするのか、あるいは新設校の学区からも小規模を選ぶ子供たちを取り入れたりするのか、市内の別の学校からも参加できるようにするのか、といったことから、ある程度の規模を確保するということだと思いますが、これに対する計画的なものが、もしあるのであれば教えていただければと思います。

学務課長：ありがとうございます。分けて説明させていただきます。学区については、小規模特認校となった場合は、市内どこの学校からも来てもいいですよ、という形になります。それが小規模特認校というもので、小規模特認校に指定された学校以外にお住いのお子様希望をすれば、どなたでも来ていいというのが、小規模特認校の形になります。

学び推進課長：ありがとうございます。ある程度の規模を確保という部分につきましては、市内全体にこのことを周知することで、どのくらいの人数が確保できるか、ご希望されるか、ということは未知数のところがございます。ただ、逆にいいですと、説明したようなカリキュラムを実施していく中では、ある程度上限としましては、1学年20名程度をマックスと考えています。したがって、6学年で120人の中でお集まりいただくというのが、このカリキュラムを行う中では上限かと考えています。

発言者：ご回答ありがとうございます。例えば、この新設校の学区の中で、栗原小学校が小規模特認校になった場合、こちらに移りたいという声も上がっているのでしょうか。

学び推進課長：これまでPTA本部の方への説明と、保護者様への説明の時に、新設校

学区の方もいらっしゃいました。その中でお話しいただいた方には、イエナの特色を生かした教育にも興味があるということで、慎重に検討していきたいという方もいらっしゃいました。ですので、あちらの学区の方もこちらにいらっしゃる方はいらっしゃるのかな、という雰囲気は感じるところです。

発言者：わかりました。ありがとうございます。

司会：そのほか、いらっしゃいますか。大丈夫ですか。では、そろそろ終了とさせていただきます。貴重なご意見ありがとうございました。それでは質問を終了させていただきます。

以上をもちまして、栗原小学校の今後に関する地域住民説明会を終了させていただきます。本日は大変お忙しい中、貴重なお時間をいただきましてありがとうございました。